

石城郡民の聲

発行日、十一月廿一日 (毎月三回)
編輯兼發行印刷人 北川 秀雄
發行所 福島縣平町南町七十八番地
廣告料 五號十二字詰 一回 五十錢
一部十錢 一ヶ月二十錢 送料五厘

郷土愛にさめよ

石城郡民に告ぐ

石城百年の大計の爲に

時や今五月も既に末期静農村を含むを知る時は言を
なる人の心には蛙鳴く音も待たぬのである、世界大戦
いと、しも懐しく聞えんにを絶頂とする好景氣に押れ
近時續紛打算の純理論を事たる全世界民が現在の如き
更らに強唱し或は爲にせん財界不況に遭遇するは繰り
爲には敢て毀譽褒へんを省かへる歴史に徴し止むを得
みざる暴論を投じて恬としざる事とするもかく経済的
て恥じざる輩の多き今日日本困憊の極に達したる今日に
紙は眞に石城郷土を愛する於ては過去を捨て夢に夢見
自覺の下に眞に多數の磐城の如き志想を潔く振り捨て
の民聲を代表する意味に於て一地方一郡よりして隆盛な
て左の一編を掲げて所謂「無き名とぞ人」は言ひてを隆盛ならしめやがて此處
やみなし
心の問は、如何答へん」
眞の純理論を解しつゝ眞にこの意味に於て吾々の現に
郷土愛に覺醒しつゝも從來立脚する石城郡は如何健全
の墮勢に引づられつゝあるなる政治経済思想發達の主
人なきにしもあらざるを慮旨の下に現行の政治會議
りその幾分の啓發に資する政治が是認され圓滿なるこ
ことあらんことを祈るもの
である

即今日活眼を開きたる時若槻内閣が着々公約せる政
策實行に精進しつゝある時如何なる内閣の出現を以て
最初に吾々に映ずるものは策實行に精進しつゝある時
世界的経済不況の餘波を受これ又地方代表として石
けたる大日本帝國の經濟國城郡よりしては郡民の絶大
難、そは吾々の立脚する石多數の支持の下に比々谷議
城郡には他縣他郡にも増し事堂に於ては「吾々の比佐
て層一層眞刻なるものある石城の比佐」と親しまれる
ことは東に漁場を控へ西につゝ比佐先生が衆望に報ゆ
常磐炭田の中趣を爲す大小るべく連日連夜の奮闘に誠
炭鑛を有し其の間に幾多の心誠意日なきことは總べ於て國民に公約したる産業蠶民欺瞞策よりも實際に出

の見る所無言は金の諺のの現状は如何殊には目眩に
如く春風たい蕩 部の輩の縣議總選舉を控へたる今日
日頃の罵言も今日赫々たるは如何中央に於て政權淨浪
陸軍參與官任官の先生の勇に血迷ひ朝に夕に、その奪
姿を去る四月二十六日平驛回に應心する政友會の流れ
頭に迎へたる時如何誠に笑を汲ひ輩は未だ稚氣愛す
止とも亦哀はれざるを得ざるものあらんも所謂民政黨
ないのである、此處に於て部會なるものを名乗り去る
石城郡即石城郡民比佐先 五月五日にはその部會總會
生なるこの理を眞に理解しなるものを召集し数日前
得てこそ初めて石城郷土をりして會場を南町民政黨俱
愛し、やがて石城郡發展の樂部と廣告し告示し通達し
道程となるのである、かく當日に至りて初めて石城民
説き來りたる時石城郡政界政院外團春季總會の俱樂部

疲弊農村を如何にせば

振興するか?

石城養蠶獎勵會長

營業技手 木田藤次郎

全國民の七割を農業經營者立國とは如何なる策の樹立
に抱括する我國に於國民を以つて立國策否農村の振
濟と最も密接なる關係を有與を計つたか、又民政黨内
なる農村振興策に就ては徒閣に於て産業の合理化とは
に聲のみ大にして實際に如何なる振興實現を以つて
數の興望を双肩に荷ひて現 如何なる内閣の出現を以て
振興する産業政策の實現が合理化と云ふか、最も判り
如何なる内閣の出現を以て易くハツキリ吾々農蠶民に
遅るる遅るる観あるは誠よび掛け而して其實行を叫
て遅るる遅るる観あるは誠よび掛け而して其實行を叫
我國は産業立國産業の合理私は政友會の内閣にしる民
化を叫ぶ以前に於て眞剣な政黨の内閣出現にせよ産業
農村振興策を絶叫其實現の立國策だの産業の合理化
を期せねばならぬのであなどてテーブル式の太鼓
政友會内閣當時にやカネを叩へて一時的の農
於て國民に公約したる産業蠶民欺瞞策よりも實際に出

に開かるゝを知り狼敗其のば主従の従にあるべき筈のらざる所以を告げ奉はせて
極に達し會場を聚樂館とや院外團にかく會場を占めら 縣議總選舉の近づける今日
らに變更し閉門恐々の中にれしのみならず、權威を失に又々郡民諸君を欺瞞せん
謹々百名足らずの人間を以てふ理なくこの一事にしてすが爲めに若松が萩原がと大
て形式のみの總會を終へたら彼等の陰謀捏造卑劣極り聲叱呼する彼等一派の窮狀
りとは傳へ聞くにむしろなきことは明かである 焦慮を明らかに諸君の前に
滑稽沙汰の限りである、況 政治を口にする以上飽く暴露し石城郡即石城郡民即
やその振舞酒茶の餘勢をまで正大なるべきも本紙比佐先生の純粹なる純理論
以て流言卑語を放ち非紳士は立憲を名乗る政争の堂々の下に立つ若松、萩原兩氏
的なる言文の活動廣告式のたるを希ふ以上總べて紳士の彼等一派と氷炭相容れざ
ものをまき猶數十名は俱樂部的たるを望むと共に愛する所以を郡の輿論に此の秋
部に至りて院外團總會の和石城郷土に立脚し郡民諸君に於て述べ其の参考の一端
やかなる議事の進行を妨害と比佐先生のかく離るべかとするものである

立憲石城民政青年會

發會式舉行

並に同會主催比佐參與官 任官祝賀演說會

來得る實行策の樹立實現をしてこそ初めて産業の合理 國庫負擔となし眞げんに實
叫び熱望するものでありま化農村の實際振興化となつ際農業者を指導せしめ多角
す、産業の合理化とは各々て行くのではあるまいかと形經營法に依て少費多獲の
技術的に手腕熟練の能を有叫ばざるを得ないのであり 實現を得ばこれこそ眞の農
するものをそれ相應の方面ます 村振興化であつて此處に於てこそ初めて産業の立國の
を充當せしめて即ち適材を如何に國家が如何に政黨内てこそ初めて産業の立國の
適所に善用して遺憾なく其閣が産業合理化を叫んで見しん價が發揮せられるもの
全能力を發揮せしめてこそた所で實際に鐵を手に額にと思ふのであります
能率増進、生産物の増殖と汗を流す、農村經營者が引農村の實際振興を希ふ諸氏
なり従つて良いものを安く 續く生産収入不足の爲欠損よ吾々の將來未來に對する
需要より供給へと連なる、につぐ欠損の悲惨なる生活をして此の行き詰まれる疲
所に眞の産業の合理化が存 状態を見る時に於て吾々は弊農村振興の鐘は此れが一
するものであります テーブル式の御役所式の農 番可及的の實行策であつて
斯く言ひ來うますならば 村振興策樹立では日一日と此の鐘を諸君の眞心に依つ
私は義務教育費國庫全額負 振興にあらざして暗黒農村で協力一致亂打せしめてこ
擔とか或は七割國庫支辨と欠陥多疲策への導きと成るそ其實現となり延いては疲
かと實行しある今日眞に産 業の立國を叫ぶ我國と致し技術常設費の全額國庫負擔
業を叫んで歩ぬものなれば 業の立國を叫ぶ我國と致し技術常設費の全額國庫負擔
現在全國各町村に常設しあ ましてより以上の収入を得に實現に邁進せようではな
給諸費用を國家が全額負擔 ならば農蠶業技術員費を

し將來の大民政黨を皆負ふ
べきは現在の青年なるべき
見解の下に廣く郡下全般に
渉る青年を募り是れが政治
思想向上を計る主行を以て
着々準備を進めつゝありし
が去る四月二十六日午前十
一時立憲民政黨石城郡會統
屬石城民政青年會の名稱に
より平町南町民政黨俱樂部
館に於て盛大なる發會式
を舉行、主義綱月制定後役
員選舉の結果會長眞木桓氏
外左記の通り決定願る盛會
裡に閉會引續き同青年會主
催により午後六時より聚樂
館に於て比佐參與官任官祝
賀演說會開催、本部特
派員伊藤正雄氏外木田藤次
郎、植田三郎、高木武士、
北川秀雄、安川源市、森榮
太郎、眞木桓の各氏交々熱
辯を以て滿場壽司詰めの聽
衆を酔はせ午後十時散會せ
るが縣議總選舉を控ゆる今
日同會の設立今後の活動は
政界各方面より注視の焦点
をなつゝありと猶當日決
定の役員氏名は

- 石城民政青年會
- 會長 眞木 桓
 - 副會長 高木 武士
 - 幹事長 植田 三郎
 - 常任幹事 木田藤次郎
 - 同 北川 秀雄
 - 同 木村平八郎
 - 同 安川 源市
 - 他二十七名
 - 遊說部長 樫 村 清
 - 評議員會長村 上 榮
 - 政務調査部長 森 榮太郎

すがくしい初夏の夕の
散策には是非!!!

三一車式新装成れる……
美人女給のサービス満點の

カフェエータヒラへ
平驛前(電話六二〇番)

各種御菓子調製

泉屋

平町五丁目(電話六六八番)

◎名物最中を召せ◎

十銭均一

お壽しと
江戸前小料理

杵壽し

平町三丁目横丁
電話六七九番

出前迅速

名代 始めました
水豆

平町三丁目(横丁)

河田鐵工場

河田梅吉

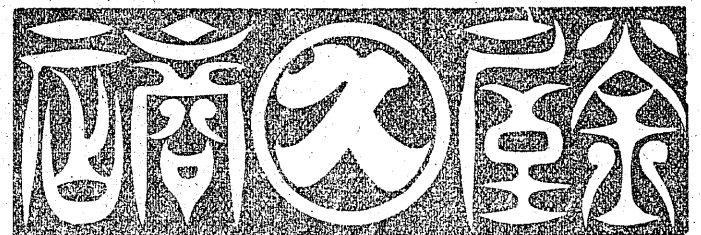
平町白銀町 電話三二九番
自宅 大町 電話七六二番

セメント礦山用諸機械 エレベーター

コンベヤー各種製作販賣 工事設計

請負

和洋銅鐵物問屋



目五番九
番九番九話電

◇醫院開業◇

專門
花柳病科
婦人科
産科

井坂醫院

平町田町(合津醫院跡)
電話五五九番

◇開業披露◇

耳鼻咽喉
氣管、食道 專門

増田醫院

院長 日醫學士 増田之

平町南町(元真木辯護士跡)

(入院隨時應需)

佐藤齒科醫院

平町四丁目
電話五〇八番

外科 專門
花柳病科

木村科醫院

入院自炊の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九番

トモエヤ

洋服店

平町一丁目川岸通り

◆學生夏服大勉強調製
◆最新流行夏服見本參着

ヤスクテ

大茶園

本場静岡岡銘茶
平町平橋小橋路

オイシイ

銅像製作

並ニ美術青銅鑄物

平町七丁目

鑄金家 工藤源吉
彫塑家 小野田高節

諸難病歡迎
効力絶大!!!

特許中山式

カイソネーチヤ療院

磐城分院

平町大町(電話三七一番)

乗合 赤井 間

若松自動車部

平町 橋 小 路
電話呼出(壽し本)三五一番

榮養に富み食べて美味しく

焚えて殖える絶對無搗胚芽米

山野邊米店

平町仲町(電話 番)

動力應用賃搗も致します

買ツテ安ク……

贈ツテ便利ナ……

十銭屋

平町一丁目

▽新品陶器到着致シマシタ△